



臨時学校運営協議会が開催されました

7月19日(金)午前10時より、臨時学校運営協議会が開催されました。今回のテーマは「原小学校交通安全自転車クラブ(以下「自転車クラブ」と表記)等に関わる提案及び整理事項」でした。

自転車クラブはコミュニティスクール(以下CSと表記)本来の仕組みから生まれたものではありませんが、現在の自転車クラブを取り巻く状況は、理想的なCSの形とみることができます。なぜなら、もともと教職員の働き方改革が叫ばれた時期に、指導者がいないという学校の課題に地域が協力したという経緯があるからです。

その結果、地域住民による指導者に恵まれ、原自治協議会の協力により練習環境が整い、対外的にも県大会二連覇を果たすまでに至っています。

そこで、自転車クラブ等(将来加わる活動を含む)の運営にCS本来の仕組みを取り入れ、中学校のクラブ活動の地域移行に代表される教職員の「働き方改革」という学校の今日的課題とからめて整理していくことを学校運営協議会委員及び自転車クラブの指導者の皆さんへ提案したというわけです。

協議内容は、次の通りです。

【臨時学校運営協議会の流れ】

- 学校長より
- コミュニティスクールについての説明(CS推進員)
- 原小学校交通安全自転車クラブ等に関わる提案及び整理事項について
 - ・新しい提案「コミュニティスクール(CS)」としての捉え方についての説明
 - ・自転車クラブをCSの一環として捉えることのメリット
 - ・自転車クラブのここまでの経緯について
- 協議・確認事項(熟議)



〈協議の中で出された主な質問や意見〉 ※読まれる方に分かりやすくするために、必要に応じて補足説明を加えています。

○自転車クラブは校外活動という認識だったが、校外活動ではないとすれば何ですか？

A: コミュニティスクールの取組としての課外活動(教育課程外の活動)ということになります。

○バレーボールやソフトボール等のスポ少と自転車クラブの違いは何ですか？

A: 自転車クラブ(競技)は、もともと安全教育の一環で交通安全の取組の必要性から生まれたものであるため、自転車大会に係る通知等は学校が窓口となります。実際の指導は自転車クラブの指導者が行いますが、学校が関わっている部分がスポ少とは違う点です。また、自転車クラブの所属員は原小学校児童のみで成り立っていますが、スポ少の場合は、単独でのチームではなく、ほとんどが複数学校からの合同チームになっています。自転車の場合も、合同チームとして大会に参加は可能ですが、その場合は優勝しても全国大会出場はできないことになっています。

〈自転車クラブ指導者より〉

○市ヘチーム登録しているが、学校の一部として捉えていたのでギャップを感じる。CSとして捉えていくことには賛成。

○自転車クラブは発足して12年だが、全くお金がないところからスタートしているため、練習に必要な消耗品も子どもへ

のご褒美等も指導者の持ち出しであった。そこは理解してほしい。

○できれば表彰をもっと早くしてほしい。士気の高揚のため、表彰のタイミング等について学校との連携が必要。

○考える力、話す力についても学校と連携していきたい。

○子どもの笑顔が報奨と思って指導している。

〈今後に向けて〉

○自転車クラブをCSの取組として捉えることは、初めての取組なので、とりあえずやってみてはどうでしょう？そして課題が出たら、また話し合えばいいと思います。ここまでのCS(学校)でここからはCS(学校)ではないという線引きは難しいと思います。

○練習に必要な消耗品は、必要最小限みんなで出し合うことも考えていくべきでは？

○自転車クラブは、ボランティアの愛で支えられている。地域の子どものどう育てるかという一番重要な目標に向けて、今後も考えていく必要あり。

○(要検討)自転車クラブの維持運営に必要な費用等に関しては、自転車クラブの保護者から一定の会費を集める → これについては、指導者より全国大会後に検討しますとのことでした。

◎今回の熟議では2時間程度の中で様々な意見が出されましたが、全ての意見をここに反映はできていません。大筋としては、今後は自転車クラブをコミュニティスクールの取組として捉えるということを共通認識して協議会を閉じました。

コミュニティ・スクール(CS)ってなに？

コミュニティスクールとは、学校・保護者・地域のそれぞれを反映した学校運営を行う仕組みで、保護者・地域の代表・学識経験者などで組織する「学校運営委員会」を設置した学校のことです。

5年生が夏休み前に篠笛を体験しました



7月17日(水)3・4校時、篠笛奏者の川口裕子さんと八本松町在住の二人のサークル仲間の方をお迎えして、篠笛体験教室が開かれました。学習発表会で5年生が取り組む総合表現「あやめの前伝説」では、役柄によっては篠笛を吹く場面があるのですが、今回は夏休み前にとりあえず全員が篠笛を体験してみようということで、時間を設けました。

事前に配布いただいた資料を参考にしながら、川口先生から篠笛の歴史や構造、種類について教えていただいた後、児童は歌口(息を吹く穴)だけで音を出してみました。初めは難しかったようですが、だんだんと音が出るようになりました。タンギングは使わないとか穴のふさぎ方が違うとか、リコーダーとの違いも教えていただきながら、所作が大切なことも学びました。とても貴重な体験となりました。